

祝祭日には国旗を掲揚しましょう

敬神尊皇 黎



明報恩感謝

監修/日刊ひぐらし 〒151-0071東京都渋谷区本町1-30-18-107 <http://www.higurashi.net/> 第0087号
護國青年會議機関紙 <http://www.gokoku.net/> 発行人/山本修三 編集人/戸出蒼流 平成24年1月15日



頌春

皇紀二六七二年正月

昭和天皇御製

あらたまの年をおかへていやますは
民をあはれむところなりけり

新春を迎え、謹んで天皇皇后両陛下のご安寧と、ご皇室の彌業、そして日本国の安泰をご祈念申し上げます。

昨年、我が日本は千年に一度という未曾有の大災害に見舞われた。天皇皇后両陛下は、何度も被災地に足をお運びになられ、被災者を励まされた。震災によって全てを失った被災者は両陛下のお心づくしに生きる希望を取り戻した。

無為無策無能政府を尻目に国民は、復興に向かって一致団結し、祖国を蘇生させようと動き出した。まさに日本民族の面目躍如たる思いだ。一方、世界情勢はどうかと言えば、今年になって益々混沌として来ているのが実情だ。ギリシア問題を発端として、深刻化するユーロ崩壊の危機と、忍びよる世界恐慌の影、さらにイランの核開発問題が中東問題を一層不安定なものとし、ペルシヤ湾は一触即発の状態となっている。

そして、日本にとって最大の危機とも言える問題が朝鮮半島で勃発しようとしている。独裁者・金正日が死亡し、三男の正恩が跡目を継いだ、3代に亘る金王朝が国内権力を掌握し続けることができるか否か波乱含みであり、いざ内部における権力闘争が起こるのではないかと筆者は思う。そうなった時、気になるのは支那の動向である。金正日の長男・正男を国内に匿う支那が、正男を擁して北朝鮮を侵略しようとするのは必定である。またロシア帝国の再興を夢見るプーチンも黙っている訳はない。北朝鮮を巡る大国の駆け引きが強まることは十分考えられる。

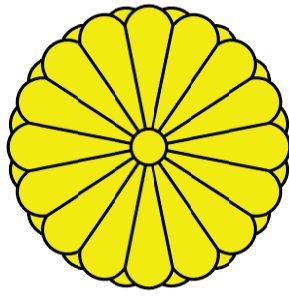
支那とロシアの動きを察知した3代目独裁者は、朝鮮人民の不満や不安から目を逸らすために、日本や韓国への攻撃命令を下すことも十分考えられることである。さらに日本国内に蔓延る反日勢力と朝鮮人が反乱を企てることも視野に入れておかなければならない。この最悪のシナリオを完璧に粉碎するには、好むと好まざるとに関わらず米国の力が必要となる。そのためには日本は米国との同盟関係を堅持していかなければならない。反日左翼が煽動する反米運動に与することなどはあってはならない。

皇紀二六七二年は、反日左翼、在日支那人、在日朝鮮人との戦いの年になることを覚悟しなければならない。支那人や朝鮮人を差別することが日本民族を守り抜く最後の砦となるのである。

編集人・戸出蒼流

万世一系の皇統を守ろう

2月から政府内で皇室典範改正に向けた本格的な議論が始まる。野ブ田佳彦はテーマを「女性宮家」創設に絞り、皇位継承と切り離して検討する方針としている。しかし、女性宮家だけを増やしても、男系で維持されてきた皇位の安定的な継承にはつながらない。将来、「女性宮家」から「女系天皇」が現れる可能性もあり、皇統の歴史を根底から覆すことにもなりかねない。万世一系の皇統を守り、皇



位の安定的な継承を得るためには旧皇族の皇籍復帰を含めた幅広い議論をすべきである。

旧皇族は昭和22年、連合国軍総司令部（GHQ）の方針で皇籍離脱を余儀なくされた東久邇北白川、竹田など11の宮家である。その後も「菊栄親睦会」を通じて皇室との交流が続いている。旧宮家の中には未婚の男性もいる。その皇籍復帰こそ、男系の皇位継承を確保するための有意義な方法といえる。

野ブ田は今回、小泉純一郎内閣の平成16年に設置された「皇

室典範に関する有識者会議」のような審議機関を設けず、識者から個別にヒアリングを行う予定でいる。野ブ田は、小泉内閣時代に論点整理は終わっていると考えているようだが、愚かな認識である。

小泉時代の有識者会議は僅か1年足らずで「女性・女系天皇容認」「男女を問わず長子優先の皇位継承」「女性宮家創設」などを骨子とする結論を出したが、その後、見つかった政府の極秘文書により「初めに結論ありき」の議論だったことが明白になった。要するに論点整理など全く終わっていないのだ。

野ブ田は、小泉時代の有識者会議の座長代理を務めた園部逸夫・元最高裁判事を内閣官房参与に任命し、助言を求めるところにしている。園部は16年の参院憲法調査会でも「女系天皇を認めることが最も良い」と述べ、有識者会議で女系天皇容認論をリードした愚者で、適切な人選とは言えない。初めに結論ありきの議論が蒸し返されないよう、国民の厳重な監視が必要である。

皇室の姿は時代に応じて変わってきているが、変わらないものもある。その一つが、神武天皇の時代から男系で維持されてきた皇統の歴史である。この歴史をいつまでも大切にしたい。

襟立て蓮舫スキャンダルで解任

真相は覚醒剤男との不倫疑惑
13日に行われた内閣改造で、村田蓮舫は、蓮舫が大内職を解かれる最大の理由は、不倫疑惑だと報じている。だが何故か日本のマスコミはこの件について一切報道していない。そこで、こういうことには人一倍好奇心が旺盛な筆者はネットを通して徹底的に調査し、その結果を掲載した。

台風15号が東京を直撃した昨年9月21日午後7時半過ぎ、最大瞬間風速36メートルという暴風が吹き荒れる中「トリュフご飯」などでその名を知られる麻布十番の高級割烹「かどわき」に一台の車が横付けされた。後部座席から出てきたのは、ショートカットで「襟立て」姿から一目でわかる蓮舫行革大臣（44・左写真）だった。暫くすると、



二号では駄目なんですか？

店の前に黒のレクサスが止まり、暴風雨に怯むことなく小麦色に日焼けした恰幅の良い男性が降りてきた。この男こそ蓮舫大臣のこの夜のお相手中山論氏（48・左写真）だ。蓮舫と中山が「かどわき」を出た後、何処



でどうやって乳繰り合ってたか定かたではないが、中山の正体は明らかに山は、嘗て都心を中心にした单身者向けのマンション事業を展開して急成長した不動産会社・ダイナシティの社長だった男である。ダイナシティといえば、最盛期には年商500億

を超え、ジャスダックに上場したこともある会社だが、良い事ばかり続かないのが世の常だ。中山は2005年、覚醒剤を隠し持っていたとして警視庁に現行犯逮捕された。その後、使用していたことも明らかになり、追送検されて懲役3年執行猶予5年の判決を受けたシヤブ中である。

野ブ田は、蓮舫の不倫スキャンダルが大騒ぎされる前にクビを切ったのだろうか、大臣を辞めさせれば済む話ではない。蓮舫は自ら議員バッジを外すべきである。

話は変わるが民主党は不倫議員の宝庫である。山本モナとの路チューで名を馳せた細野豪志、不倫相手の元高校教師に告発された「ぶつて姫」こと姫井由美子、小沢一郎の政策秘書とのW不倫を暴露された青木愛、議員宿舎に銀座のホステスを連れ込んでいた中井治、議員宿舎で半同棲不倫の西村正美と山本剛正、不倫相手をお喝した横峯良郎、キャスターとの仲をスクープされた菅直人等々数え上げたらキリがない。その中でも蓮舫は特筆に値する。事業仕分けで「二番では駄目なんですか」と発言し注目を集めたが、所詮人寄せパンダに過ぎず、最後は自分自身が仕分けされたのだ。結局蓮舫は男の仕分けもできなかつた哀れな女だったということである。編集人

